

韓国／漢陽大学校／交換留学（2025 年度秋学期）

韓国留学で得たもの

政策情報学部 原田はな

今回、私は韓国の漢陽大学への交換留学を通して、異なる文化や環境の中で生活することの難しさと同時に、その中で得られる多くの学びや気づきを経験しました。

まず、留学にあたって学生寮に入居する予定でしたが、漢陽大学は留學生の数が韓国国内の大学の中でもトップクラスであるため、学生寮の抽選に落ちてしまいました。その結果、留学直前に自らソウルで生活する住居を探す必要がありました。しかし、ソウルは家賃が非常に高く、さらに日本とは異なり、韓国にはチョンセとウォルセという二つの代表的な賃貸形態があります。チョンセは毎月の家賃を支払わない代わりに高額な保証金を預ける制度であり、一方ウォルセは保証金を預けたうえで毎月家賃を支払う制度です。特にチョンセは日本では一般的ではない制度であり、住居を借りるという行為一つをとっても、国によって生活文化や価値観が大きく異なることを実感しました。このように、留學生活の準備段階から日本との文化的な違いを体験できたことは、海外文化理解を深める貴重な機会であったと感じています。

次に、交換留學生向けのオリエンテーションでは、交換留學生同士の会話が主に韓国語ではなく英語で行われており、韓国語を学びに来た私は戸惑いを感じました。しかし、漢陽大学では英語で発表を行ったり、英語で専門分野を学んだりする授業が多く開講されているため、英語が得意な韓国人留學生も多く、異なる国の人々とコミュニケーションを取るために英語を流暢に使いこなして会話する様子を見て、私自身も英語学習により一層力を入れる必要があると感じました。

また、私はメディア分野に関心があったため、漢陽大学では「メディアコンテンツと文化」や「K-POP 特講」などの授業を受講しました。特に K-POP 特講では、実際に大学の近くにある SM エンターテインメントを訪れ、グッズショップを見学しながら、ファン心理や購買意欲、グッズを通じたファンとアーティストとの関係性について学ぶことができました。さらに、SBS のプロデューサーであり、韓国の人気番組である『ランニングマン』やアイドルオーディション番組を担当した方が実際に講義を行い、K-POP の今後について話を聞くという貴重な機会もありました。

加えて、韓国と日本の大学の授業の違いとして、韓国の大学では一人でのプレゼンテーションだけでなく、ティンプルと呼ばれるチームプロジェクトが多く取り入れられている点が挙げられます。私は、ティンプルでは日本人四人のグループで日本アニメ産業の変化について発表し、個人では好きな K-POP アーティストのアルバム企画について発表を行いました。このような授業を通して、チームメイトと協力する力に加え、内容を整理し、聞き手にとって理解しやすい構成を考える力や、視覚的に見栄えの良いスライドを作成する力が身につきました。また、発表の機会が多かったことで、人前で自分の意見を述べることへの抵抗感が減り、プレゼンテーション能力の向上を実感しました。

しかし、このように多くの貴重な経験をすることができた一方で、留學生活が常に順調であったわけではあり

ません。留学最初の約二か月間は、環境の変化や慣れない生活の影響から体調を崩すことが多く、病院に行ったり、日本に一時帰国したりすることもありました。また、何か少しでも食べたいのに力が入らず、ベッドの上で横になりながら、この選択は正しかったのだろうかと思問する日々が続きました。

そのような中、教養卓球の授業で出会った友人に誘われ、卓球サークルの活動に少しずつ参加するようになりました。正式に加入してからは、交流戦を通して漢陽大学以外の大学にも友人ができ、大会に出場してメダルを獲得するなど、多くの経験をする事ができました。卓球は相手がいなければ成り立たないスポーツであり、ラリーを続けるためには、相手にボールを返そうとする気持ちが何よりも大切です。このことは、留学生活におけるコミュニケーションにも通じるものがあると感じました。

私はこれらの経験を通して、完璧な文法や発音よりも、相手と向き合い、言葉を交わそうとする姿勢こそが重要であると実感しました。そしてこの気づきは、韓国での生活の中で自分らしく過ごすための大きな支えとなりました。

私はもともと、自分の気持ちや考えを言葉にして表現することが苦手だったため、他の国の言語であれば、少しは自分をうまく表現できるのではないかと考え、韓国語の学習を始めました。しかし実際には、留学を通して、言葉で自分を表現することは依然として最も難しい課題でした。

それでも、耳を傾け、私が伝えようとする気持ちを理解しようとしてくれる人々に恵まれ、時には日本語ではなんて言うの?と聞いてくれたり、知っている日本語を交えながら会話をしてくれたり、人との交流の中で多くの温かさに触れることができました。こうした人々と過ごした時間は、私にとってかけがえのないものとなりました。留学当初、ソウルはどこか冷たく、自分の居場所はないのではないかと感じていましたが、日々の出会いや交流を通して、人との繋がりが私の居場所を作ってくれたと感じています。

私は高校生の頃から韓国への交換留学を目標とし、大学入学後は LEH や短期留学などの国際交流・海外プログラムに積極的に参加してきました。その過程で語学資格や成績を維持し、今回漢陽大学への交換留学を実現することができました。さらに、その過程の中で韓国の大学に通いたいという思いが強まり、編入試験に合格し、春からは韓国の大学で学ぶ予定です。

旅行で訪れる海外と、実際に生活する海外は全く異なるものであり、大変なことも多くあります。

しかし、その分、乗り越えた先にはかけがえのない出会いや経験が待っていることを知ることができました。今回の留学で私が得たかけがえのないものは、留学中に会った人々であり、そして夢を叶えた未来でした。



(授業でのプレゼン)



(大学祭)



(卓球サークル)



(卓球大会の表彰状とメダル)